

進路指導室へようこそ3

前橋女子高校進路指導部

令和7年度 MJ 進路通信 第38号

令和7年12月5日（金）発行

■3（2）者面談が始まります

来週から面談期間が始まります。1・2年生については、担任の先生と「この1年間の取り組み」と「進路選択に向けての準備」についてしっかり話を詰めておきましょう。年明けは、実質「次学年の0学期」。この冬休みで1年間の反省を行い、1月からは2（3）年生としての生活を送るつもりで、面談に臨もう。終了後に「よし、頑張ろう」と思えるような面談にしたいですね。

3年生についてはいよいよ本番に向けての最終的な打ち合わせになります。今回の面談の主な目的は

- ① 本人、保護者、担任でのしっかりとした情報共有・・・皆が同じベクトルで目標に向かえるように
- ② $\alpha\beta\gamma$ プランの確認・・・共通テストでどんな結果になってもすぐに対応できるように
- ③ 私立大出願校の決定・・・共テ利用でどこをとるか、一般入試でどこに挑むか
- ④ 後期・私大・浪人等の最終的な押さえどころ・・・しっかりとした見通しと意思をもった選択を

などではないかと思います。また、共通テスト利用私大の出願は、年明けすぐに始まるものが多いですので、調査書の申請も早めに済ませておきたいものです。終業式までに申請がなされたものについては年明け始業式の日に渡すことになります。調査書をもらったらすぐに出願できるよう、ある程度の段取りは済ませておきましょう。

■3者面談（台本）こんな感じ・・・だといいな

面談というと「気が重い」という人もいるかもしれませんが、本来この面談は「**生徒自身が自分の言葉で自分の将来の夢とその戦略を語る場**」であり、「**周りのサポーターがその夢の実現のためにできる支援を一緒に考える場**」であることをお忘れなく。

担任：本日はお忙しいところありがとうございます。それでは3者面談を始めさせていただきます。まずA子さんから、現在の志望校についての考えを話してください。

A子：今はX大学のK学部を第一志望としています。現時点では模試の判定もCやDが多く、まだ厳しいですが、入学時からの目標もあり、共通テストまでは簡単に諦めずに頑張りたいと思います。

担任：直近の模試だとボーダーまであと20点くらい足りないようですが、対策は考えていますか？

A子：現状では理科の2科目めと地歴がまだ仕上がっていません。この1カ月は、この2科目を重点的に学習し、それぞれ10点上乗せを目指します。ただ共通テストの結果によってはY大学、想定外の点をとってしまったらZ大学も考えています。できれば国公立大を優先したいので、中・後期で県内のT大学を押さえたいです。

担任：分かりました。私立の併願校についてはどうですか？

A子：（受験カレンダーを見せながら）共テ利用のR大学と、2/1に高崎で受験するS大学は、模試判定でもコンスタントにA判定が出ているので、まずここで早めに合格を確保しておきたいと思います。それから共テ私大のK大学とL大学、2/6のM大学を受験予定です。M大学は、本命のX大学と難易度や傾向、配点がよく似ており、進学先の候補の1つとしても魅力があります。本番に向けての予行練習としても挑戦したいと考えています。

担任：分かりました。A子さんとは面談で志望校について話を聞いており、共通テストの結果を踏まえて本人の希望を尊重して判断させたいと考えています。ご家庭の方で何かご意見はございますか？

保護者：家でも子供とよく話し合っており、本人の希望を応援したいと考えていますが、もっと滑り止めを受けた方がいいんじゃないか、とかいろいろ心配で・・・

担任：私大の受験は費用的にも体力的にも負担が大きく、受験数の増減はお子さんとはよく相談して検討していただければと思います。その際この受験カレンダーが参考になると思います。また、御家族の心配もつきないとは思いますがあまり過敏になるとお子さんのプレッシャーも大きくなります。「どんな結果でも受け入れるから思い切って挑戦してごらん」と背中を押してあげることで共通テストの点も20点は変わると思いますよ。

保護者：じゃあ、さっきの20点はそれで埋まるじゃないですか！。何とか一緒に頑張ってみます。

担任：では、第一志望の現役合格を目指して頑張らしましょう。私大出願用の調査書は、22日までに申請すれば年明けすぐに受け取れます。受領後すぐ出願できるよう準備しておいてください。では、これで3者面談を終わりにしたいと思います。本日はありがとうございました。

志望校への道のりは様々です。いろんな人がいろんな経験をもっていて、様々な選択肢（アドバイス）を考えてくれます。その中から最も効果的な戦略を探すのが重要です。自分だけの狭い考えに固執するあまり、外からのアドバイスに初めから耳をふさぐのは考えもの。もちろん最終的には自分で判断すべきものですが、そこまでに「こんな考え方もあるんだ」と柔軟にアドバイスを聞き入れるゆとりのある人のほうが最終的には上手くいくものです。



そして、保護者の皆様には面談に際しお願いがございます。この時期（3年生は言わずもがなですが）生徒は将来の進路に向けて大きなプレッシャーを感じながら過ごしています。そのような状況において、周囲からの過剰な期待や重圧は生徒を更に追い込んでしまう可能性があります。この時期一番大切なのは、生徒自身が自分の目指す進路に納得し、周囲が温かくサポートしてあげることだと思いますので、ご家庭におかれましても温かく見守りつつ、さりげないサポートに協力していただきますようお願い申し上げます。よろしくお願いいたします。

■冬休みの準備を

今年も残すところわずかとなり、もうすぐ新年を迎えます。1・2年生は来年4月には1つ上の学年に進級します。受験に向けた準備を今まで以上に意識する時期となります。受験生になる前に、これまでの学習などについて、この冬意識すべきポイントをまとめておきます。

①これまでの学習の「量」と「質」を再度見直そう

自分の学習スタイルを「量」と「質」の観点から振り返り、各観点で○△×の自己評価とその評価の理由、よかった点、反省点などを書きあげてみよう。

この時期成績を伸ばした受験生の多くに共通しているのは

- ・毎日一定の学習時間（特に休日）を確保している
- ・学習開始時間が一定である
- ・「暗記」よりも「理解」を重視した学習を行っている

などです。

②過去に受けた定期試験や模試の結果を振り返ろう

定期テストや模擬試験で間違えた問題は、自分の「伸びしろ」です。冬休み中にじっくりと時間をかけて取り組んでみましょう。必ず、力になります。復習のポイントは

- ・今までの定期テストや模擬試験で間違えた問題を解き直す。
- ・自己採点をする。この時、「答えがあっていたか」よりも「考え方がちゃんと正しかったかどうか」に注意して採点する。
- ・「考え方が正しくなかった問題」については、考え方を理解することから始め、類題に取り組む。
- ・「考え方がわかっていたが間違えた問題」については、「なぜ間違えたのか」原因を探り、「自分のミスの癖」を認識して、もう一度問題を解き直す。

冬休みは年末・年始にあたり慌ただしい時期ですが、これまでの復習を行うチャンス。何から始めればよいのか迷っている人は、まず今までのテストを全部見直して

みよう。必ず、自分の課題が見えてきます。

③志望校・進路について改めて考えてみよう

次年度0学期は「志望校の選択肢を広げる時期」です。

自分が日頃、興味や関心のある分野について学べる大学・学部・学科の情報を広く集めてみましょう。そのなかで、自分が将来やりたいことをよく考え、志望校を絞り込んでみましょう。

※進路を振り返るためのヒント（チェックをいれてみよう）

- ☐ その学部・学科を志望した理由は何か
- ☐ その大学を志望している理由は何か
- ☐ 自分がその大学や学部・学科で学んでいる姿がイメージできるか
- ☐ 難易度だけで志望校を決めていないか
- ☐ 進学後や大学卒業後に「やりたいこと」「なりたいもの」はどんなことか

■手続きは初日に済ませるつもりで（3年生向け）

年明けは私大の共通テスト利用入試、一般入試、国公立大の学校推薦型入試など、出願に向けての手続きが慌たしくなります。通常、出願は1/5(月)～1/16(金)のように、一定の期間が指定されています（当然1日でも遅れたら受理してもらえない！）。早く出せば合格の可能性が上がるわけではないですが、こういう出願というのは「初日に到着する」つもりで準備するのが鉄則です。受験生にとって一番大事なのは「勉強の時間を確保すること」。そのためにも出願手続は早めに済ませて、いち早く勉強に専念するのが大事。

また、私大一般入試では、願書到着順に受験会場が指定される場合もあります。受付が遅いと、自宅や宿泊地から遠い会場を指定されることもあります。面接を課す入試では順番が早くまわってきて早く帰れる可能性がありますし、合格発表で番号を探すのも楽です。受けると決まっている大学は、誰よりも早く手続きを済ませることが、実は合格の可能性を高めることにつながるのです。